

# 事業者のご紹介5

(事業再開等を果たされた事業者のみなさま)

令和2年9月

福島相双復興官民合同チーム

(公益社団法人福島相双復興推進機構)



## <はじめに>

私たち福島相双復興官民合同チームは、これまでに約5,400の事業者の方々、約2,000の農業者の方々と訪問・支援させて頂いておりますが、そのなかで、復興やまちづくりに熱い想いを持つたくさんの方々のお話をうかがうことができました。

事業再開や開業に当たっては、多くの事業者がさまざまな悩みや苦勞を抱えながらも、「相双地域の復興のために」「愛する故郷に活気を取り戻すために」という想いのもと、着実に歩みを進めておられます。

その方々の取組みをほんの一例ではございますが、冊子としてとりまとめさせて頂きました。今回、第5弾として24の事業者・農業者をとりまとめさせて頂きましたので、ぜひご一読ください。

この冊子以外にも、奮闘する多くの事業者をホームページやSNSで紹介しておりますので、こちらも併せてご覧ください。

ホームページ

<https://www.fsrt.jp/>



公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/>



公式ツイッター

[https://twitter.com/kanmingoudou\\_T](https://twitter.com/kanmingoudou_T)



## 目次

事業者・農業者	現所在地	電話番号	HP/SNSアドレス	頁
穴田歯科医院	富岡町字夜の森南三丁目54	0240-22-3522		1
株式会社あぶくま川内	(川内の湯) 川内村上川内字小山平501 (いわなの郷) 川内村上川内炭焼場516	0240-39-0103 0240-38-3511	<a href="http://www.abukumakawauchi.com/">http://www.abukumakawauchi.com/</a>	2
阿部 登	葛尾村野川字仲ノ内77-1	080-1668-9515		3
おきがる亭	川俣町日向40-1 山木屋地区復興拠点商業施設 とんやの郷	024-563-2021	<a href="https://www.facebook.com/tonyanosato/">https://www.facebook.com/tonyanosato/</a>	4
小高マルシェ	南相馬市小高区本町二丁目28		<a href="https://odaka-marche.com/">https://odaka-marche.com/</a>	5
一般社団法人葛力創造舎	葛尾村大字落合字夏湯134	0240-23-6820	<a href="https://katsuryoku-s.com/">https://katsuryoku-s.com/</a>	6
株式会社かどや	富岡町大字小浜中央238	0240-23-7466		7
有限会社鹿山電気商会	飯館村深谷字二本木前23-1 (福島営業所) 福島市大森字古館56-2	0244-42-0032		8
菓子処 かの家	榎葉町大字北田字細内89-2	0240-25-2028		9
今野畜産	南相馬市原町区高字竹の内19-2	0244-23-5202	<a href="https://konno-chikusan.jimdofree.com/">https://konno-chikusan.jimdofree.com/</a>	10
佐久間 辰一	田村市大越町牧野字西之内46	0247-85-3147		11
サラタイ	富岡町小浜字中央714	0240-23-5503		12
四季の食処 ふく富	富山県高岡市北島1355	0766-25-3636		13
有限会社柴栄水産	浪江町大字請戸字古川15-7	0240-23-5411	<a href="http://www.shibaei.co.jp/">http://www.shibaei.co.jp/</a>	14
すずみや	榎葉町大谷字堂ノ内97	0240-23-5121		15
ダイニング大川原	大熊町大川原字南平1141-1	0240-23-6162	<a href="https://dining-ogawara.com/">https://dining-ogawara.com/</a>	16
仁坂の森の栗の木バーガー&福祉美容室	南相馬市原町区江井字仁坂118-1	0244-26-5909	<a href="http://kurinoki.html.xdomain.jp/">http://kurinoki.html.xdomain.jp/</a>	17
西内食堂	浪江町西台字台115	0240-23-6889		18
藤田商店	富岡町大字小浜大膳町245	0240-22-3409		19
故郷喫茶caféカミツレ	南相馬市小高区本町一丁目24-1 (小高交流センター内)	0244-26-7222		20
豊工業株式会社	浪江町大字樋渡字土測2-3	0240-23-4227		21
よりあい処 華	田村市都路町古道字新町67	080-8203-8787		22
若松屋旅館	広野町大字折木字南沢310-1	0240-27-2135	<a href="https://oriki-wakamatsuya.com/">https://oriki-wakamatsuya.com/</a>	23
株式会社渡工テクノサイト	川俣町羽田字向1-1	024-566-2326	<a href="http://www.watako.co.jp/">http://www.watako.co.jp/</a>	24

## 穴田歯科医院（医療・富岡町）



院長の穴田さん(右)とスタッフ



診察室の様子



歯科医院外観

- 現院長の穴田佳則先生のお父様が、昭和40年代に富岡町夜の森に開業した「穴田歯科医院」は、地域に根差した歯科医院として、長年親しまれてきました。震災により避難を余儀なくされますが、その後、平成24年に郡山市で移転再開しました。
- 郡山市の医院には、避難先から通ってくださる患者さんもいましたが、生まれ育った富岡町のことを常に気掛かりだった穴田先生。富岡町に歯科診療所を復活させるため、帰還再開を決断し、震災後、長期間使用されなかった診療所の改装に取り掛かりました。
- 令和2年4月、念願の帰還再開を果たしました。再開後は、昔なじみの方など多くの患者さんが来院されています。「私たちが少しでも地域の役に立てれば」と話す穴田先生。これからもスタッフ一丸となって、多くの患者さんの不安解消、富岡町の医療充実に貢献していきます。

## 株式会社あぶくま川内（娯楽業・川内村）



従業員の皆さん



日帰り温泉施設「かわうちの湯」



いわなの郷「幻魚亭」

- 「株式会社あぶくま川内」は、平成17年、村営施設である日帰り温泉「かわうちの湯」、及び釣り堀と宿泊施設が併設するレジャー施設「いわなの郷」の管理運営を行うために設立されました。施設は、村民の皆様や周辺市町村の方々からも親しまれてきました。
- 震災により大きな被害を受け、全面休業を余儀なくされますが、震災から半年後の平成23年11月に「かわうちの湯」を一部再開。平成25年6月には「いわなの郷」の営業も再開し、いわな料理など、震災前と同じ味わいを楽しめるようになりました。
- また、平成24年12月から、復興に携わる方のための宿泊施設「ビジネスホテルかわうち」の運営も開始。平成29年からは、川内村の地場産品や特産品（いわなの燻製・蕎麦など）が並ぶ農産物直売所「あれ・これ市場」の運営管理も開始するなど、村の観光施設等の管理運営を通して、川内村と住民の方の復興に、重要な役割を果たしています。

## 阿部 登さん（農業・葛尾村）



生産者の阿部さん



珍しい品種のナス



“銀杏(いちょう)”の形が特徴の  
「いちょう芋」

- 阿部さんは震災前、葛尾村で水稻、タバコを中心に栽培していましたが、震災により避難を余儀なくされました。
- 平成28年6月、葛尾村の避難指示が解除されると、避難先から村に通いながら農業を再開しました。そして、平成29年に帰村してからは、白色、縞模様、緑色といった珍しい品種のナスや、山芋の一種の「いちょう芋」など、多品目の農産物を生産しています。また、自宅のブドウ圃場を勉強会の会場として提供し、村内のブドウ栽培者との交流も図っています。
- 阿部さんが避難先で出会い、葛尾村で栽培を始めたという「いちょう芋」は、岡山県の飲食店にも取引※されており、その特徴的な形と食感から、お客さまとのコミュニケーションにも一役買っています。

※農業者が生産した農産物を、購入者に直接発送する支援メニュー「宅配企画」

## とんやの郷「おきがる亭」(飲食サービス業・川俣町)



従業員の皆さん



「おきがる亭」店内



日替わり定食の一例

- 令和2年5月12日、川俣町山木屋地区の復興拠点商業施設「とんやの郷」内の食堂棟に「おきがる亭」がオープンしました。契約満了となった前事業者に代わり、食堂運営に名乗りを上げたのは、地元自治会メンバーが中心となり立ちあげた「NPO法人 やまきやお気軽ネットワーク」。
- 何度も打ち合わせを重ね、試行錯誤を繰り返しオープン時期を迎えましたが、新型コロナウイルスの影響で開業日の後ろ倒しを余儀なくされました。しかし、この期間をチャンスと捉え、調理訓練を繰り返すなど、従業員の士気が下がることはありませんでした。
- 開店当初はテイクアウトのみの販売でしたが、5月21日、店内飲食をスタート。多くの方にご利用いただいています。「私たちは 山木屋を愛する人々に 料理を通じ 元気・笑顔・会話を提供します」をコンセプトに、“元気”と“笑顔”で皆様のご来店をお待ちしております。

## 小高マルシェ（小売業/農産物直売所・南相馬市小高区）



小高マルシェ出品者のみなさん



店舗内観



小高マルシェ  
odaka marche



小高マルシェシンボルマークと  
小高マルシェの野菜セット

- 小高マルシェは、小高区復興拠点施設である小高交流センター内に、小高区の農家有志が中心となり、地元の農産物を販売する直売所として、平成31年1月にオープンしました。出品者が真心込めて作り上げた旬野菜に加え、現在は六次化商品・民芸品等を販売しています。
- 都内飲食店へ定期的に「小高マルシェ宅配企画～福島からの贈物～」として、良質・多品目の厳選旬野菜セットを発送。飲食店から高い評価を受けています。小高区の地域PRも含め精力的に取り組んでいます。また、新型コロナウイルスの影響で参加飲食店が窮地にあることを受け、これまでの恩返しとして、野菜セット等は無償提供する応援活動も始めました。
- 更なる販売拡大や地域PRに向け、「小高マルシェ公式WEBサイト※」を立ち上げ、積極的な情報発信を展開していきます。 ※令和2年8月5日プレオープン、令和2年9月末本格運営予定

かつりょくそうぞうしゃ  
一般社団法人 葛力創造舎（人材育成/事業開発・葛尾村）



代表の下枝さん



稲刈り風景（葛尾村）



伝統的なお米「里山のつぶ」  
から作られた甘酒（ノマッシュェ）

- 「葛力創造舎」は、代表理事の下枝さんが故郷葛尾村の地域おこしを目指し、平成24年2月に立ち上げた一般社団法人です。下枝さんは震災前、埼玉の大学で地盤工学を学び、井戸掘削の仕事で海外でも活躍していました。しかしこのままでは将来葛尾村に戻ることができても、過疎が進んで村がなくなってしまうという危機感から法人を立ち上げました。
- 地方にある「人・自然・文化」を使い、古を引き継ぎ、新しきを創造し、次世代への新しい社会を創造することを目標に掲げ、葛尾村を中心に活動。葛尾産米「里山のつぶ」を使った商品開発なども手掛けています。
- 令和2年2月、葛尾村でのコメ作りとその商品化を通じた地域づくりや、次世代人材を育成する「葛力創造塾」の開講といったこれまでの取り組みが評価され、地方新聞46紙と共同通信社が主催する「地域再生大賞」で優秀賞を受賞しました。

## 旬香酒房かどや（飲食サービス業・富岡町）



オーナーの菊地さん



店舗外観



おすすめの刺身盛り合わせ

- オーナーの菊地義一さんは、富岡町で昭和初期から続く「かどや」の3代目として、寿司をメインに提供する居酒屋を経営していました。素材を活かした料理で人気を集めていましたが、震災により避難と休業を余儀なくされました。
- その後、平成25年6月にいわき市で営業を再開。お店はすぐに評判となり、連日、多くの常連客で賑わっていましたが、代々受け継いできた店を故郷で再開したいという思いから、いわき市の店を閉め、富岡町での再開準備を進めました。そして、令和2年7月、「旬香酒房かどや」を震災前と同じ場所で再オープンさせました。
- 新鮮な魚介を中心とした和食に加えて、牛肉の赤ワイン煮などの洋食メニューもあり、バラエティーに富んだ料理で幅広い層に楽しんで頂けます。また、店内は落ち着いた雰囲気です。

## 有限会社 鹿山電気商会（建設業/家電品小売業・飯舘村）



代表の鹿山さん(中央)とご家族



新社屋外観



イベントルーム

- 「有限会社鹿山電気商会」は、現代表である鹿山さんのお父様が、昭和38年12月に創業した設備工事業の会社です。家電販売を皮切りに、水道設備業、住宅関係の電気設備業と事業を広げ、地元飯舘村のライフラインを守る仕事に従事してきました。
- 震災直後、鹿山さんは破損した近隣の水道管工事を行っていましたが、避難指示により一家は避難を余儀なくされました。資材やガソリンの調達に苦慮するなか、利用者の要望に応じ、すぐに事業を再開。飯舘村の事務所を拠点に、避難先から新地町や川俣町の仮設住宅の電気設備工事（エアコンや照明器具の取付工事）に携わり、震災からの復興に尽力してきました。
- 令和2年2月には、飯舘村に新社屋が完成。2階にはイベントルームの他、夜間の緊急工事などにも対応できるよう、作業員向けの宿泊室も設置しました。鹿山さんのモットーは「お客さまファースト」。迅速かつ丁寧に、お客さまのご要望にお応えします。

## 菓子処 かの家（飲食料品小売業・檜葉町）



店主の菅野さんと奥様



店舗外観



「天神太鼓」と品揃え豊富な菓子

- 「菓子処かの家」は、檜葉町で創業から70年以上続く老舗の菓子屋さんで、震災前は多くのお客さまで賑わっていました。
- 菅野さんご一家は、震災によりいわき市へ避難。長らく休業を余儀なくされますが、被害を受けた店舗を改装し、平成30年10月、7年半ぶりに檜葉町で営業を再開しました。柔らかいふわふわの生地の中に甘いクリームとチーズが挟み込まれた、30年のロングセラー商品“天神太鼓（チーズブッセ）”の他、店内には家族や知人へのお土産に最適な和菓子や洋菓子が数多く取り揃えられています。
- 再開を待ち望んだ地元のお客さまが多数来店し、忙しい日々を送る中、奥様と二人で美味しいお菓子作りに励んでいます。

## 有限会社今野畜産（食料品製造業・南相馬市原町区）



新設した食肉加工場



新設した直売店



「福島牛」を使った総菜も充実

- 「今野畜産」は、食肉加工場と直売店を有する「原町区のお肉屋さん」として永年愛されてきていましたが、東日本大震災および原子力災害のため、多くのお客さまを失いました。
- そこで、先行き不透明な南相馬市で生き残っていくため、平成29年に自ら、採択が難しいといわれている「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助事業」に応募し、採択が決定。その中で、令和3年6月を期限に、飲食に関わる全ての事業者に対して導入が義務付けられる「HACCP」に沿った衛生管理を、新設する食肉加工場に導入する等、先見性のある企画を立案し、実践しています。また、直売店も食肉加工場に直結する場所に新設しました。
- 現在では、「福島県原子力被災事業者事業再開等支援補助金」で導入した食肉加工場内の設備も効率良く稼働し、広くすっきりとした直売店では販売スタッフが生き生きと働き、ジューシーな「メンチカツ」等の惣菜も含め、大盛況です。直営店の「千壽（せんじゅ）」も含めおいしい畜産品を、リーズナブルな価格で提供しています。

## 佐久間 辰一さん（農業・田村市）



生産者の佐久間さん(右)



亜熱帯地域が原産と言われる  
パッションフルーツ



パッションフルーツの  
キューブゼリー

- 佐久間辰一さんは震災前、県内の農業高校で教壇に立っていました。パッションフルーツ栽培のきっかけは、20年ほど前に友人からもらった1本の苗木。南国の植物を寒冷な阿武隈の地でたくさん育ててみたいと感じ、鉢植えで育て始めました。
- 教員退職後の平成28年から、パッションフルーツの本格的な露地栽培に挑戦。減農薬や有機栽培にこだわり、試行錯誤を繰り返しながらようやく自信を持ってお届けできる果実を収穫できるようになりました。
- 一人でも多くの方に田村市のパッションフルーツの美味しさを味わってもらおうと、六次化商品の開発に着手。常温で6か月間日持ちする「パッションフルーツのキューブゼリー」を完成させました。現在は、県内の百貨店等で常設販売しています。

## サラータイ（飲食サービス業・富岡町）



オーナーの遠藤さん



お洒落なログハウス風の外観



本場の味を楽しめるタイ料理

- 「サラータイ」は、タイのバンコク出身の遠藤マユリさんが平成20年に富岡町にオープンさせました。町内では珍しいタイ料理店で、本場の味をベースに香辛料の量を調整するなど、日本人好みの味付けに仕上げたことで評判を呼び、県外からもお客さまが訪れる人気店に成長。
- しかし、オープンからわずか3年、震災によりお店は休業を余儀なくされました。平成23年9月、避難先であるいわき市の貸店舗で営業再開しますが、諸事情により平成27年に閉店。その後、平成29年に富岡町へ帰還し、土地探しなど再開に向けた準備を進めました。
- 令和2年3月10日、9年ぶりに富岡町小浜で営業を再開。震災前から人気のトムヤムクンやグリーンカレー、カオマンガイなどを提供し、昼だけでなく夜も営業しています。新型コロナウイルスの影響により、約1か月間休業しましたが、5月12日に営業を再開。再開後も賑わいを見せています。

## 四季の食処 ふく富（飲食サービス業・双葉町→富山県高岡市）



三瓶さん(右端)と従業員の皆さん



店舗外観



特選和牛ハンバーグ定食

- 「四季の食処 ふく富」を経営する三瓶さんは、双葉町出身。震災前は、双葉町においてご家族で営まれていた「宝寿司」の板前として腕を振るっていました。しかし、震災によってやむなく閉店し、ご家族は避難生活を余儀なくされました。
- 震災後は、双葉町から一緒に避難した方のついでで、富山県氷見市で生活するなかで、お父様と二人で新店舗の開店に向けて奔走。そして、平成27年11月、富山県高岡市に「ふくしま」と「富山」に因んで名づけた「四季の食処 ふく富」をオープンしました。
- 店内は広々としており、法事や宴会などで利用出来る20名入れる座敷や、掘りごたつタイプのテーブル席など約130席あります。加賀レンコンが入ったシャキシャキの食感が楽しい、特選和牛ハンバーグ定食が大人気です。

## 有限会社柴栄水産（水産業・浪江町）



代表の柴さん



水産加工団地の加工場と直売所



売れ筋商品の「上乾しらす」

- 「有限会社柴栄水産」は、明治時代に浪江町請戸地区で創業以来、水産業を営んできました。ちりめん（干しらす・干小女子・干白魚）は関東、関西方面でも人気が高く、福島県観光みやげ品としても推薦されるほどでした。
- しかし、震災により避難、休業を余儀なくされました。震災後、南相馬市に本社機能を仮移転しましたが、三代目の柴孝一さんは、浪江町への思い入れが強く、地元での事業再開に向け、少しずつ準備を進めてきました。
- 令和2年2月、町が整備した水産加工団地内に水産加工施設が完成。4月には9年ぶりに浪江町での事業を再開しました。また、7月には直売所をオープン。請戸漁港で水揚げされた新鮮な「常磐もの」が並びます。

## すずみや（飲食サービス業・富岡町→楡葉町）



オーナーの横田さん



自宅兼店舗



おすすめの「唐揚げ定食」

- オーナーの横田さんは震災以前、富岡町にて「すなっくmai」の名で飲食店を運営していましたが、震災により避難と休業を余儀なくされました。平成26年、避難先のいわき市でスナックを再開しますが、体調を崩しお店は閉じることになりました。
- 横田さんは体調回復後、他業種で働きながら、飲食店再開に向け準備を進めてきました。知人からの紹介もあり、新たに楡葉町に自宅兼店舗を構え、令和元年9月に飲食店「すずみや」をオープンしました。
- 店名には、「皆さんが涼しんでいただける（清々しい気持ちになれる）お店にしたい」という思いが込められています。お昼のおすすめは3種類（唐揚げ、スタミナ（野菜炒め）、ハンバーグ）の定食メニュー。夜は居酒屋として営業しており、カラオケも楽しめます。

## ダイニング大川原（飲食サービス業・大熊町）



店舗外観



広々と使える宴会場



地元食材を使った料理

- 「ダイニング大川原」は、大熊町で被災された双葉設備工業（株）代表取締役の志賀勝彦さんが、平成25年7月に設立した（株）サンライフ社（同代表）が運営する飲食店です。
- 志賀代表の「地域の復興を支える皆様の憩いの場および地域住民の皆さまの交流の場を提供したい」との思いから、令和2年3月に大熊町大川原地区の大熊町役場新庁舎前に飲食店をオープン。地元の食材をふんだんに使った料理や地酒を提供しています。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一時休業しましたが、令和2年7月に再開。昼はランチ、夜は交流の場・憩いの場として、開店を待ち望んでいた復興を支える皆様や、地域の皆さままで賑わいをみせています。

## 仁坂の森の栗の木ベーカリー & 福祉美容室（飲食サービス業・南相馬市原町区）



栗の木ベーカリー



美味しそうなパンと人気の食パン



高齢者に優しい福祉美容室

- 事業主の和田川さんは、福島県会津若松市出身で、神奈川県で暮らしていました。神奈川県では、福祉美容のNPO法人を立ち上げ、病院、老人施設、個人宅への出張美容を行ってききましたが、平成31年4月、現在の南相馬市原町区江井に移住。
- 移住に至った経緯は、郷里の福島県に戻り復興のお役に立ちたいとの思いと、南相馬市で素晴らしい古民家に出会えたことでした。令和2年3月20日、1年の準備期間を経て、創業補助金を活用し、国道6号線から300m入ったところにパン工房と福祉美容室をオープンしました。
- パンは全て手作り、体に良い材料を使うよう心掛け、女性がいやすい金額で提供しています。近隣にパン屋がないこともあり、多くの方に利用いただいています。店内はジブリの世界感のある古民家カフェを併設しており、女性がゆっくりとくつろげる場を目指しています。美容室はどなたでも利用可で、車イスでも入れるようスロープ付の入り口となっています。また、出張カットにも対応しています。

## 西内食堂（飲食サービス業・浪江町）



店主の西内さん



店舗内観



自慢のうどんとカレーライス

- 店主の西内さんは、浪江町の出身。震災前は、東京都台東区蔵前で居酒屋を営んでいましたが、震災後、故郷の浪江を盛り上げたいという熱い思いから、地元への帰還を決意しました。
- その後、平成30年10月に居酒屋を閉店。「浪江町でうどん店を開業する」と心に決め、有名うどん店で修業に励みました。修行開始から1年、満足できる「うどん」の味に到達したことから、令和元年12月に浪江町で「西内食堂」をオープンしました。
- お勧めメニューは、「西内食堂特製ぶっかけうどん」（大盛り無料）と蔵前時代に絶大な人気を博した「大盛りカレー」です。「うどんを食べて、笑顔になろう！」が西内さんのモットー。食べ終わったらぜひ、コンテナハウスの前で笑顔の写真を撮って帰って欲しいとのこと。

## 藤田商店（L Pガス/灯油販売/コイン洗車場・富岡町）



社長の藤田さん(左)と  
今田さんご兄弟



完成した新事務所



コイン洗車場FUJI

- 「藤田商店」は震災前、L Pガスおよび灯油の販売を家族で営んでいました。震災により避難、一時休業を余儀なくされましたが、「生活必需品であるL Pガスと灯油の販売を再開して欲しい」と、お客様からの依頼を受け、平成29年4月の避難指示解除と共に、富岡町での事業を再開しました。
- お客様と会話する中で、「町内に洗車場が無いので車が汚れてしまっても、我慢して乗り続けるしか無い」との話を聞き、ガスや灯油の販売と同じように、洗車場も住民の生活に必要であると考え、令和元年12月、敷地内に「コイン洗車場FUJI」を開店しました。
- 「コイン洗車場FUJI」は、地域の住民だけでなく、復興作業を担う業務車両も多く利用しています。また、令和元年11月には新事務所も完成し、L Pガス・灯油の販売も含めて、地域の住民の生活を支える大切な事業者となっています。

## 故郷喫茶caféカミツレ（飲食サービス業・南相馬市小高区）



代表の吉田さん



店舗内観



洋食のBランチ

- 代表の吉田さんは、小高区出身。地元復興を願って自ら行動を起こし、小高区復興のシンボルである「小高交流センター」内に、平成31年1月、「故郷喫茶caféカミツレ」をオープンしました。
- 「カミツレ」とは癒しのハーブ「カモミール」の和名で、花言葉は「逆境に耐える」「逆境で生まれる力」「苦難の中の力」。ここ「故郷喫茶caféカミツレ」が、多くの人々が集う復興拠点となりますようにと名付けています。
- 地元産野菜を使ったランチメニューは週替わりで、和食のAランチ・洋食のBランチ・軽食の3種類。中でも、Bランチでいただける吉田さん手作りのパンが特に人気です。14時からのカフェタイムでは、季節によってメニューが変わるケーキプレートをはじめとした、こだわりのスイーツとドリンクを楽しむ事ができます。

## 豊工業株式会社（建設業・浪江町）



経営者の岩野さん父子(中央)と従業員の皆さん



店舗外観



所有するダンプカー

- 「豊工業株式会社」は、代表取締役の岩野さんが昭和50年に浪江町で創業。福島県や浪江町の公共土木工事と浪江町内の民間工事を中心に、営業活動を進めてきました。
- 震災後、相馬市で避難生活を余儀なくされながらも、震災関連の瓦礫撤去工事などで営業を再開。平成27年5月には南相馬市に仮事務所を設置し、絶え間ない営業活動を続けています。
- 故郷の浪江に戻って営業再開することを大きな目標として掲げ邁進した結果、令和元年6月に、念願の帰還再開を実現することができました。今後も、地元である浪江町の復旧・復興工事に尽力し、活力ある地域づくりに貢献していきたいと思っています。

## よりあい処 華（飲食サービス業・田村市都路町）



店主の今泉さん



店舗外観



絶品ランチ

- 店主の今泉富代（ひさよ）さんは、平成の初め頃、田村市都路町で地元の女性たちと「愛都路（めとろ）の会」を立上げ、地域のイベントで料理を振る舞ったり、手芸教室を開催するなどの活動をしていましたが、震災によって避難を余儀なくされました。
- 平成26年4月の避難指示解除に伴い都路町に帰還。田村市復興応援隊の支援も受けながら、居住していた実家の古民家を改築し、同年6月1日、手芸教室として「よりあい処 華」を開店。さらに、都路町に食事を提供する場が無かったことから、週3日、ランチの提供も始めました。
- いか人參、山菜、地元野菜の味噌汁など郷土料理を中心としたメニューは、ボリューム満点です。今泉さんが作る絶品ランチと温かい笑顔で皆様のご来店をお待ちしております。

## 若松屋旅館（宿泊業・広野町）



代表の松本さんと奥様



アルカリ単純泉のお風呂



贅沢お料理プランの一例

- 「若松屋旅館」は、江戸時代から続く老舗旅館で、震災前、県内外から湯治客が多く訪れていましたが、震災により代表の松本さん一家はいわき市へ避難、旅館は休業を余儀なくされました。
- 営業が出来ず悲嘆に暮れていたところ、常連のお客様からの「早く再開して欲しい」という言葉に後押しされ、平成23年4月末に営業を再開。再開後は、復興関連の業務に携わる作業員などへ宿を提供するため、休業することなく営業を続けてきました。
- 令和元年11月26日（いい風呂の日）に旅館内外の装飾を充実させリニューアルオープン。家族やビジネスで訪れた方がゆったりと落ち着ける部屋、様々な料理プランを提供しています。江戸時代より続く鉱泉のお風呂は、バリアフリーにも配慮しており、高齢者や体が不自由な方でも気軽に温泉を楽しめます。

## 株式会社 渡工テクノサイト（金属製品製造業・川俣町）



社長の渡辺さん(中央右)と  
従業員の皆さん



新工場外観



整然と配置された加工機械

- 「株式会社渡工テクノサイト」は、渡辺社長が昭和49年に川俣町で創業。45年の長きにわたり、産業用省力化部品や半導体関連部品などの精密部品加工を手掛け、お客様のご要望に沿ったものづくりに取り組んできました。
- 震災後、避難を余儀なくされた従業員が退職するなど、人材不足に悩まされながらも事業を継続。永年培った金属精密加工のノウハウを生かし、信頼度の高い製品を迅速かつ低廉に提供することをモットーに、常に技術の向上を目指してきました。
- 令和2年1月、渡辺社長の従業員への想いが詰まった新工場が完成しました。先進的な木材構造の工場には先端設備を多数導入。大きな開口窓の食堂は明るく、従業員同士のコミュニケーションがとりやすい環境に配慮しています。従業員一同、素晴らしい環境の工場での今後の成長への期待に胸を膨らませています。



発行 / 公益社団法人 福島相双復興推進機構(福島相双復興官民合同チーム)  
編集 / 広報戦略部 広報課  
〒960-8031 福島県福島市栄町6番6号 NBFユニックスビル4F  
TEL: 024-502-1115(代表)



ホームページ  
<https://www.fsrt.jp/>



公式フェイスブック  
<https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/>



公式ツイッター  
[https://twitter.com/kanmingoudou\\_T](https://twitter.com/kanmingoudou_T)